



2024年度（2025年3月期） 第1四半期決算説明会

2024年7月31日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

サマリー

- 生成AIに向けたSoC半導体の複雑化進展にともない、信頼性向上のためのテスト需要が想定以上に引き上がる
- 顧客への製品納入が進捗し、売上ミックスも改善したことから、FY24 1Qの売上高、営業利益、当期利益は前年同期および前期比で増収増益
- FY24通期予想も上方修正

○ サマリー

- まず私、ダグラス ラフィーバより、第1四半期の結果のご報告に先立ちまして、2024年度の概況についてご説明いたします。
- 当社はこれまで生成AIがもたらす事業機会についてご説明してきましたが、その一部が第1四半期から発現した形となります。
- 半導体テスト関連市場は2024年度から再び成長サイクルを迎えると見込んでいましたが、特にSoCテストにおいて、半導体の複雑性の増加がテスト需要を想定よりも急峻なペースで引き上げています。
- 第1四半期の売上高、営業利益、当期利益は前年同期および前期比で増収増益となりました。半導体の高性能化・複雑化が進展し、需要が高まる中で、事前計画以上に顧客へ製品納入を行うことができ、売上ミックスも良化しました。
- 2024年度の通期予想も上方修正します。
- このようなことから、今年度を起点とする第3期中期経営計画としては幸先の良いスタートとなりました。
- それでは、第1四半期決算について三橋からご説明いたします。

2024年度第1四半期決算報告

経営執行役員
CFO & CSO (Chief Strategy Officer)
経営戦略本部長 三橋 靖夫

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST®

四半期業績推移

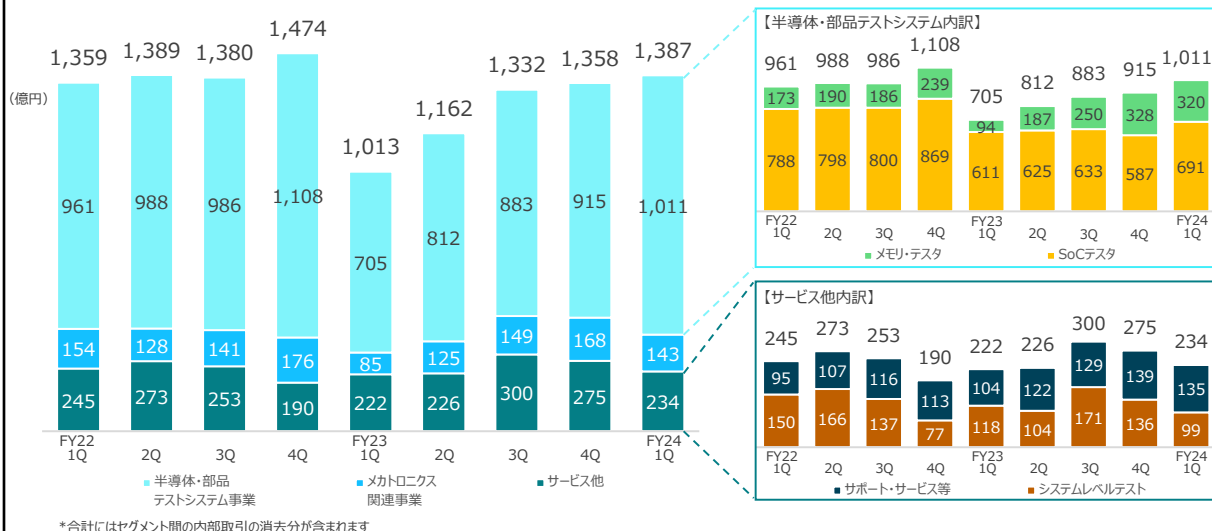
(億円)									
	FY23				FY24				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前期比		前年同期比	
						増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,013	1,162	1,332	1,358	1,387	+30	+2.2%	+375	+37.0%
売上総利益	510	580	674	696	769	+73	+10.4%	+260	+50.9%
売上総利益率	50.3%	49.9%	50.6%	51.3%	55.4%	+4.1pts		+5.1pts	
営業利益	143	210	268	195	313	+118	+60.4%	+171	+2.2倍
営業利益率	14.1%	18.1%	20.1%	14.4%	22.6%	+8.2pts		+8.5pts	
税引前四半期利益	130	203	263	186	319	+133	+71.6%	+190	+2.5倍
四半期利益	92	167	212	152	239	+87	+57.6%	+147	+2.6倍
四半期利益率	9.1%	14.4%	15.9%	11.2%	17.2%	+6.0pts		+8.1pts	
為替レート	1米ドル	135円	142円	149円	147円	153円	6円 円安	18円 円安	
	1ユーロ	146円	156円	159円	159円	165円	6円 円安	19円 円安	
1株当たり配当額*1	-	16.25円 (65円)	-	18円	-	-	-	-	-

*1:当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。上記1株当たり配当金はFY23期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています。(カッコ内は分割前の値)

○ 2024年度第1四半期の業績概要

- 第1四半期実績は、SoCテスト需要の回復や対米ドルにおける円安の進行も追い風となり、売上、利益ともに前期を上回る結果となりました。
- 生成AI関連を中心にSoC・メモリともに高性能半導体向けでの顧客の旺盛な設備投資が見られました。他方で、成熟プロセス品向けでは前年度第3四半期以降から需要の落ち込みが継続しており、前期比で減収となりました。
- 詳細は以降のスライドで順次ご説明いたします。

四半期売上高 事業セグメント別



○ 2024年度第1四半期の売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ SoCテストは、前期比104億円増の691億円でした。
- ・ HPCやAI関連等の先端プロセス品向けの需要が大きく伸びたことから、売上が増加しました。他方で成熟プロセス品向けでは、低調な車載・産業機器関連に加え、ディスプレイ・ドライバー I C (DDIC) 向けも売上が減少しました。
- ・ メモリ・テストは、前期比で横ばいの320億円でした。HBMを中心とした高性能DRAM向けの高水準な需要が継続しました。

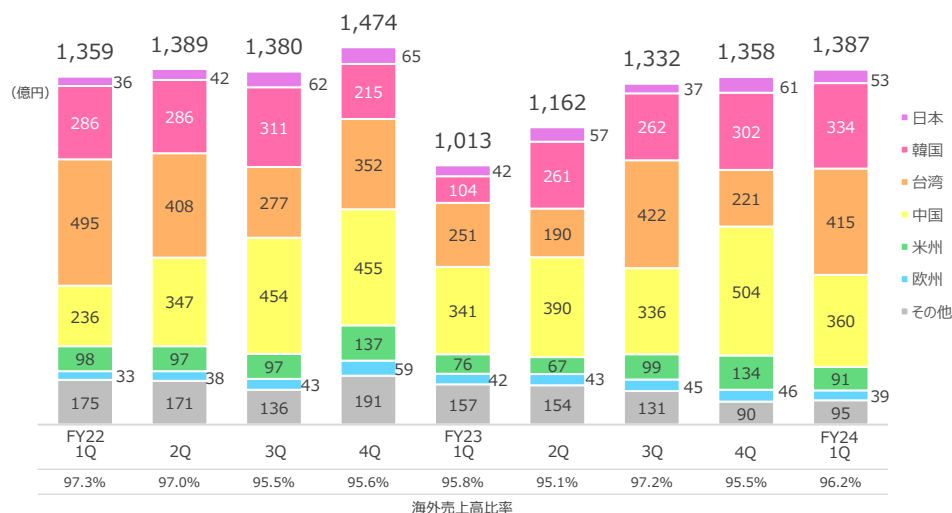
○ メカトロニクス関連事業

- ・ テスタの販売増に連動してデバイス・インタフェースは前期比で増収となりました。しかし、ナノテクノロジー関連の売上で、前期にまとまった売上があったことから、このセグメントの売上は前期比で減少しました。

○ サービス他

- ・ 特定顧客向けの比率が高いシステムレベルテスト (SLT) において、依然として民生機器関連の需要低迷が続いており、売上が減少しました。

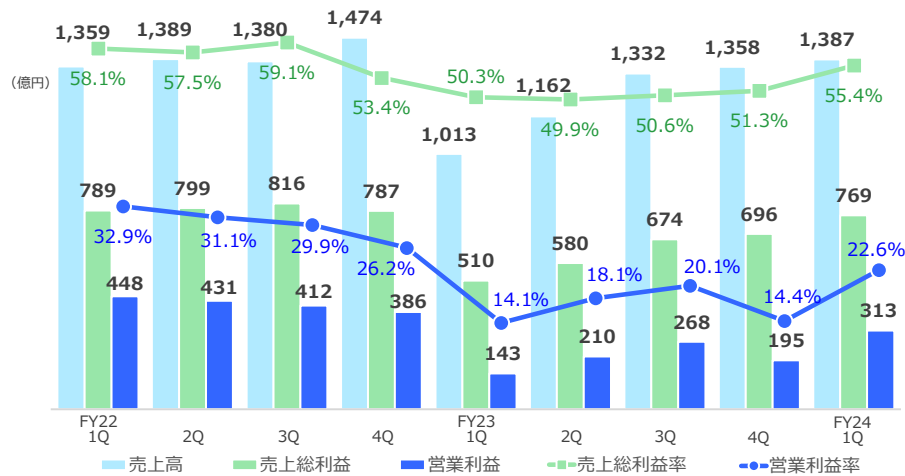
四半期売上高 地域(出荷先)別



○ 2024年度第1四半期の地域(出荷先)別売上高

- 台湾**
 主に米国のファブレスが牽引するHPCやAI関連等の半導体の複雑性の進展が、想定以上にテストタイムの長時間化を促し、関連するファウンドリ・OSATのテスト所要台数を増加させました。そのため、余剰テストはほぼ解消され、SoCテストの売上を一段伸ばしました。
- 韓国**
 DRAM向けを中心とする旺盛な顧客の投資意欲は継続しており、メモリ・テスト売上が増加しました。
- 中国**
 SoCテスト、メモリ・テストともに売上は前期比で減少となりましたが、高水準な売上は継続しています。
- なお、米国および同盟国による半導体製造装置の対中輸出規制に関し、現行法令において2024年度の業績に対する直接的な影響は限定的と考えておりますが、引き続き今後の状況を注視してまいります。

売上高/売上総利益/営業利益



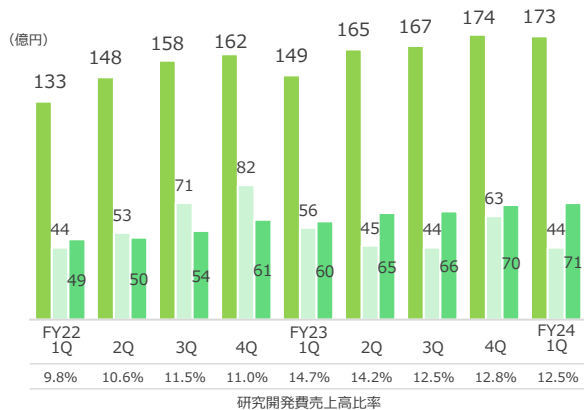
○ 2024年度第1四半期の売上高/売上総利益/営業利益

- ハイエンドSoC向けの売上構成比率が上昇したことによるミックスの改善などから、売上総利益率が前期比で上昇しました。
- 販売費および一般管理費等（その他収益・費用を合算）は、前期比で45億円減少しました。
- ただし前期はのれんの一部減損損失約90億円をその他の費用で計上しており、実質ベースの販管費は円安や業績連動賞与引当金の増加などにより前期比で増加しました。

投資等/キャッシュ・フロー

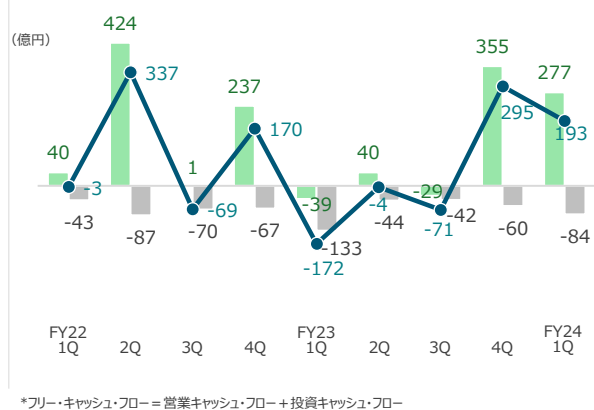
<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



○ 2024年度第1四半期の研究開発費等

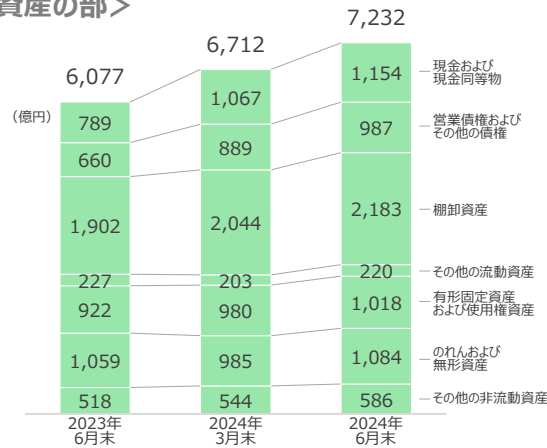
- ・ 研究開発費、設備投資、減価償却費はご覧の通りです。
- ・ 研究開発費は前期に引き続き高い水準となっております。

○ 2024年度第1四半期のキャッシュ・フローの状況

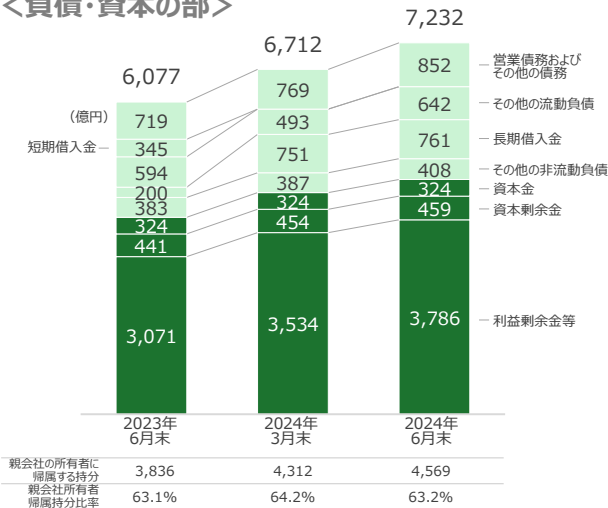
- ・ 第1四半期は賞与やその他の支払いなどがあるため、営業キャッシュ・フローが前期比で減少しました。
- ・ 投資キャッシュ・フローについては、2024年4月2日付でテストサービスのエンジニアリング会社であるオランダ Salland Engineering社を買収しました。そのため、第1四半期の投資キャッシュ・フロー支出が増加しました。
- ・ なお本買収は、中長期的な成長基盤強化を目的としたものであり、当社の2024年度の業績に与える影響は軽微な見通しです。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2024年6月末時点のバランス・シート

- 棚卸資産は前期比でやや増加しています。当社売上が伸びる一方で、需要回復はアプリケーションごとに濃淡があります。需要の高まる高性能半導体向けテストでは、増産に向け調達も強化する一方で、需要の回復に時間を要する製品群については、引き続き棚卸資産管理に取り組んでまいります。
- 私の発表は以上です。引き続き2024年度事業見通しについて再びダグラスよりご説明いたします。



2024年度事業見通し

代表取締役 兼 経営執行役員 Group CEO Douglas Lefever

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST®

事業環境と半導体テスト市場の動向 <24年7月時点の見方>

<事業環境>

- 根強いインフレを背景に金融引き締め政策が継続したものの、世界経済は堅調に推移
- 生成AI関連の半導体は想定を上回る成長を見込む一方で、車載・産業機器向け半導体はなお軟調に推移。半導体市場の回復はまだな様相を呈する

<半導体テスト市場>

- 2024年の半導体テスト市場は、生成AIに向けた半導体の複雑性の増加がHPC向けテスト需要を想定よりも急峻なペースで引き上げ。従前よりも強い需要の伸びを予想
- 一方、車載・産業機器向けテスト需要の回復には時間を要する見通し
- 旺盛な高性能DRAM向けテスト需要に対し、テスト供給能力を早期に立ち上げたこともメモリ・テスト市場規模見通しの引き上げに貢献

	CY23実績	CY24推定
SoCテスト市場	約\$3.3B	約\$3.2B - 3.5B (4月時点推定:約\$2.9B-3.2B)
メモリ・テスト市場	約\$1.1B	約\$1.6B - 1.8B (4月時点推定:約\$1.4B-1.7B)

Source: Advantest

12 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 事業環境と半導体テスト市場の動向

- ・ 2024年の半導体市場の回復は、まだらな様相を呈しています。生成AIに向けた半導体は想定を上回る成長を見込む一方で、車載・産業機器向けの半導体需要はなお低調に推移するものと見込みます。
- ・ 2024年のSoCテスト市場は、米ドルで32億ドルから35億ドルのレンジと、3か月前の想定から3億米ドルほど市場規模予想を引き上げます。車載・産業機器向けのテスト需要の回復には時間を要するものの、生成AIに向けたHPCをはじめとするSoC半導体の複雑化の進展にともない、テスト需要が想定よりも高まることを見込みます。
- ・ 2024年のメモリ・テスト市場は、米ドルで16億ドルから18億ドルのレンジと、こちらも市場規模予測を引き上げます。旺盛な需要が継続する高性能DRAM向けテスト需要に対し、テスト供給能力の早期立ち上げも、メモリ・テスト市場規模見通しの引き上げに貢献しています。
- ・ これらを総合すると2024年の半導体テスト市場は、ミッドポイントで前年比およそ15%増加するものと見込み、2024年のテスト需要は期初の想定よりも拡大すると予想します。

FY24業績予想

(億円)

	FY23	FY24							(参考)新旧予想比較	
		実績					前年度比		4月時点 FY24予想	修正額
			1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	増減額	増減率	
売上高*1	4,865	1,387	1,533	2,920	3,080	6,000	+1,135	+23.3%	5,250	+750
営業利益	816	313	357	670	710	1,380	+564	+69.1%	900	+480
営業利益率	16.8%	22.6%	23.3%	22.9%	23.1%	23.0%	+6.2pts		17.1%	+5.9pts
税引前利益	782	319	356	675	710	1,385	+603	+77.2%	890	+495
当期利益	623	239	267	506	544	1,050	+427	+68.6%	670	+380
当期利益率	12.8%	17.2%	17.4%	17.3%	17.7%	17.5%	+4.7pts		12.8%	+4.7pts
研究開発費	655	173	177	350	350	700	+45	+6.9%	670	+30
設備投資	208	44	64	108	112	220	+12	+5.8%	220	-
減価償却費	261	71	68	139	131	270	+9	+3.4%	270	-
為替レート*2	1米ドル	143円	153円	140円	147円	140円	143円	-	140円	3円 円安
	1ユーロ	155円	165円	155円	160円	155円	158円	3円 円安	155円	3円 円安

*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

*2:為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+9億円です。対ユーロは-3億円です

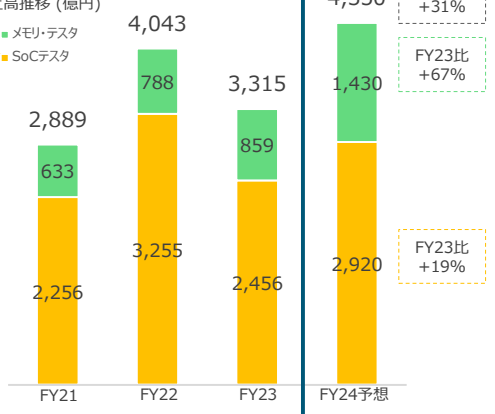
○ 2024年度の業績予想

- 第1四半期実績と今後の見通しを踏まえ、通期予想を、売上高6,000億円、営業利益1,380億円、税引前利益1,385億円、当期利益1,050億円に引き上げます。
- 上方修正する売上750億円のうち、S o Cテストの引き上げ幅が大きいです。S o Cテストは上半期・下半期共に高い需要を見込みます。メモリ・テストは下期に一段の増収を見込んでいます。
- 想定以上の売上増加が見込まれる中で、需要に追従すべくサプライチェーン管理にも引き続き取り組んでいきます。
- 通期の売上総利益率は、52%程度と、売上増加およびミックス良化により、48%程度とした前回予想からの上昇を見込みます。
- 第2四半期以降の予想の前提とした為替レートは、米ドルが140円、ユーロが155円です。
- 為替レート変動が2024年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、通期で対米ドルでは1円安時+9億円、対ユーロでは-3億円です。米ドル取引での売上が増加する見込みのため、4月時点より米ドルでの感応度を2億円引き上げています。
- 売上予想の詳細を次にご説明いたします。

FY24見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）

■ メモリ・テスト
■ SoCテスト



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>（4月予想比 +470億円）

- HPC/AI向けの半導体の複雑化進展を背景に、想定以上の需要増を予想。一方で、成熟プロセス品向けでは復調に時間を要する見込み

アプリケーション別内訳	FY21	FY22	FY23	FY24(予)
コンピューティング・通信	60%	65%	60%	80%
車載・産業機器・民生・DDIC*	40%	35%	40%	20%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

<メモリ・テスト>（4月予想比 +170億円）

- HBM向けの顧客の旺盛な投資意欲に対し、当社の製品供給体制を早期に整備。増産対応に目途がつき、売上見通しを引き上げ

アプリケーション別内訳	FY21	FY22	FY23	FY24(予)
DRAM	60%	60%	90%	95%
不揮発性メモリ	40%	40%	10%	5%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

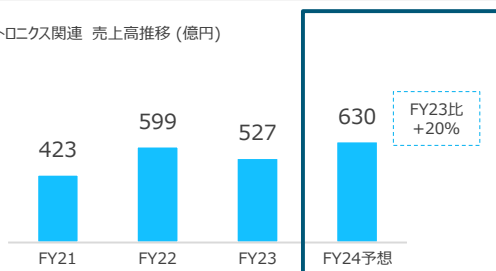
* DDIC: ディスプレイ・ドライバーIC

○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストの2024年度通期売上予想を、4月の見通しから470億円引き上げます。
- 4月の決算説明会では、SoCテストのリードタイムの正常化に伴い、顧客からの商談情報も短期的な傾向となっているとご説明しました。
- そうした環境下で3か月が経過しましたが、3か月前と比べ、HPC/AI向けの半導体の複雑化を背景に、テスト需要の増加が鮮明化してきたため売上予想を上方修正しました。
- 他方でアプリケーション・プロセッサ向けでは、3ナノ移行などでの需要は期待できますが、依然として需要回復は不透明な状況です。車載や産業機器、DDICといった成熟プロセス品向けも復調には時間を要する見込みです。
- メモリ・テストは2024年度通期売上予想を、4月の見通しから170億円引き上げます。
- こちらは、前年度から顧客の旺盛な投資意欲が継続していましたが、計画よりも早期に当社の増産体制構築に目途が経ったため、今回売上予想を引き上げました。

FY24見通し（事業別）

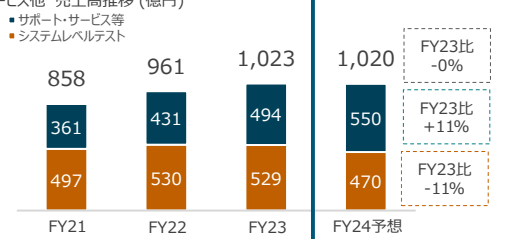
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業（4月予想比 +80億円）

– テスタの売上予想引き上げに伴い、関連するデバイス・インタフェースの売上予想引き上げ

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業（4月予想比 +30億円）

– 当社製品の設置台数の着実な伸びにより、サポート・サービスの需要は堅調

– システムレベルテストは、民生機器関連での不透明感が継続しているものの、半導体の複雑化、高信頼性要求を背景に売上予想をやや引き上げ

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業の通期売上予想は4月の見通しから80億円増額します。
- テスタ売上が伸びる中で、関連するデバイス・インタフェースの売上を前回予想から引き上げました。
- サービス他事業については、通期売上予想を4月の見通しから30億円引き上げます。
- サポート・サービスでは、当社製品の設置台数の着実な伸びを受けて、底堅い需要を見込みます。
- SLTについては、通期売上予想を4月の見通しからやや引き上げます。民生機器関連での不透明感は継続しているものの、半導体の複雑化、高信頼性要求を背景にコンピューティングや車載領域向けで売上の伸びを見込みます。



- ご説明の通り、2024年度は幸先の良いスタートとなりました。
- 一方で課題も存在します。
- 先に開示したMTP3の売上、コストおよび利益の目標モデルと今回の通期業績予想を比較すると、目標モデルは売上高6,300億、営業利益率25%に対して、今回の通期予想は売上高 6,000億、営業利益率は23%です。
- 営業利益率をコスト・利益の目標モデルの25%とするためには、売上の増加とともにさらなる収益性の改善も必要です。
- 製品ミックスに左右されにくい収益構造にしていくためにも、目下の課題の1つであるHBM向けでの収益性向上などの施策を推し進め、MTP3の達成に向け邁進してまいります。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。